

「AALと日本語の4技能」パート1

2016年4月6日にスタートした校長通信「並木ドリーム」が3年目に入りました。2016年度（タイトルバー緑）は200号まで発行しましたが、2017年度（タイトルバーピンク）は120号の発行（通算320号）でした。今号からの2018年度版は、タイトルバーをスカイブルーにしました。今年度も、学校の様子や私の活動を発信して行きますので、よろしければご覧ください。今号では、去る3月22日の終業式の校長講話の内容を掲載します。新入生の皆さんも、読んでくれると嬉しいです(^_^)。

◆2018年3月22日の終業式での校長講話◆ 「AALと日本語の4技能」パート1

- 去る3月1日の卒業式の学校長式辞で、AAL「アート・アクティブ・ラーニング」について話しました。生徒の皆さんの中には、何をやるのだろうとモヤモヤしている人がいるでしょう。そのモヤモヤ感は結構大事です。実は、AALについては、珍しく言葉を先行させました。何をやるかは、先生方や生徒の皆さんがデザインしていいのです。
- ただ、私にもいくつかのアイデアがあります。1つだけ紹介します。皆さんはALでよく対話をすると思います。その対話の結果をホワイトボードに書いたり、「ロイロノート」で共有することがあると思います。その時です。みなさん、文字で書いていますね。文字ではなく、絵で描いてはどうでしょう、色も使うといいですね。自分の考えを自由に絵で表現できるようになると、世界中の人々と対話ができるようになります。これもAALです。
- 一言で言うとAALとは、「右脳」を使うアクティブ・ラーニングです。明治維新以来、日本の教育で重視していたのは「左脳」を使う勉強でした。「右脳」は、「イメージの脳」「芸術の脳」と呼ばれ、感性、企画力、創造力、空間認識力などを担当しています。いよいよ日本もAI時代が到来しました。仕事も大きく変化してきました。AIは分析力、計算力など「左脳」が担当している分野を大得意としています。AI時代を生きるには、AIにできない仕事を人間が行うことになります。その仕事には、結構「右脳」を使う分野が多いのです。
- 「アクティブ・ラーニング」という言葉によって、現在全国の多くの学校で授業改善が進んでいるように、AALという言葉によって、アートの重要性、「右脳」の大切さが全国に伝わるいいなと思っています。
- 実は、今年、AALともう一つ発信しているものがあります。それは、「日本語の4技能」です。皆さんは「英語の4技能」という言葉を新聞等で目にしていると思います。英語を「聞く・読む・話す・書く」という技能で、8年生からは、6年次になった時、大学受験のために英語の4技能の民間テストを受ける事になる予定です。「英語の4技能」について、本校の皆さんは、普段の授業をしっかり受けていれば身につきます。一方、「日本語の4技能」とは、日本語を「聞く・読む・話す・書く」です。日本語なので、当たり前に行っている人が多いと思います。でも、皆さんは正確に教科書や試験の問題文を読めていますか。何となく分かったつもりで読んでいる人はいませんか。
- 国立情報学研究所の新井紀子教授は、2月に発行された『AI vs教科書が読めない子どもたち』という著書の中で、読解力のない子どもたちが多いことに警笛を鳴らしています。新井教授は2011年から人工知能プロジェクト「ロボットは東大に入れるか」の中心だった方です。その研究の過程で、中学・高校生に読解力が足りないことが分かったそうです。進学校の生徒でも、教科書が正確に読めていないという、衝撃のデータも出てきました。
- 日本語の文章を何となくではなく、正確に読む読解力を身につけることは、AIにできない仕事をする上で基本となります。さらに、話す力です。去る3月6日、アクティブ・ラーニングに関する取材がありました。その際に、インタビューをした方から「話を聞いた4人の生徒さんが簡潔に論理的に話すので驚きました。」という感想をいただきました。これは、普段の「R80」などで、自分の考えを整理して伝える力である「論理力」が身についた結果ではないかと思ひ、たいへん嬉しかったです。
- もう一度言います。日本語の4技能とは、日本語を正確に「聞く・読む・話す・書く」です。この4技能は、国語の授業だけで学ぶものではありません。すべての教科で「日本語の4技能」を意識して授業を受けるようにしてください。そして日常生活においても、正しい日本語を使うように心がけてください。